

木曽町立日義中学校 開催要項

研究テーマ

言語活動を通して、生徒の主体的な学びを引き出す英語授業の在り方

- 1 期日 令和7年10月27日(月)
- 2 会場 木曽町立日義中学校 体育館 〒399-6101 長野県木曽郡木曽町日義 1795
- 3 個人研究者 教諭 佐藤 広基 ALT シェリー・ユー
- 4 共同研究者 関西外国語大学 教授 直山 木綿子 先生
- 5 日程

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| (1) 受付 | 13:20~13:45 |
| (2) 公開授業 | 13:55~14:45 |
| 英語 Lesson6 「日義の魅力を伝えよう」 (New Crown 3) | |
| 授業学級 中学3年 18名 | |
| 授業者 教諭 佐藤 広基 ALT シェリー・ユー | |
| (3) 開会式 | 14:55~15:00 |
| ① 主催者挨拶 信濃教育会研究調査部 部長 清水 秀明 様 | |
| ② 諸連絡 | |
| (4) 研究発表、質疑・応答、感想等(20分) | 15:00~15:20 |
| ① 研究発表 教諭 佐藤 広基 ALT シェリー・ユー | |
| ② 授業への質疑・感想、直山先生にお聞きしたいこと等 | |
| (5) 直山木綿子先生による講演会 (70分) | 15:20~16:30 |
| 演題「言語活動を通して指導することの具体」 | |
| (6) 閉会式 | 16:40~16:50 |
| ① 会場校校長挨拶 学校長 丸山 美恵 | |
| ② 諸連絡 | |

7 その他

- ・駐車場は体育館北側駐車場、または校庭をご利用ください。
- ・座席表(感想記入用紙)は、お帰りの際に受付にご提出ください。
- ・その他、ご不明な点がございましたら、担当までご連絡ください。

木曽町立日義中学校
担 当 大澤 幸弘(教頭)
電 話 0264-26-2004
メー ル hiyoshi-ejs@kisoji.com

1 日義小中学校の紹介

日義中学校は、明治十九年に日義学校として誕生してから、百三十九年続く歴史に幕を閉じ、本年度末をもって閉校となります。昭和二十二年、新学制により義務教育が小中学校と分離した後も、小中一貫教育の実践を願い、一村一校の重点主義の精神に基づき、小中併設校として設立され現在に至っています。そして、「和して同ぜず」の精神をもって一体となり、郷土の英雄「木曾義仲」公の天下を望んだ気概と、厳寒に耐えて



咲くりんどうの美しさに学び、源氏の紋所「笹りんどう」を校章として、格調高い校風が今日まで受け継がれてきています。小中併設校ならではの行事として、縦割り清掃、お花見給食、日義体育、仮植作業、小中音楽会、スキー教室などがあります。異年齢のふれあいが自然と生まれ、小学生と中学生が毎日笑顔で協働的に学びあっています。小中最後の今年度は、児童会と生徒会が協力し合い、最高の一年になるように、小中一緒に企画をこれまで以上にたくさん考えています。早速、四月二十三日に児童会企画で小中合同お花見給食を行いました。小中それぞれが互いに思いやりながら、大切にし合う姿があります。

本校では『じょうぶで 思いやりがあり 自ら学ぶ子ども』を学校教育目標に据え、本年度の重点を「つながる学び ～前時と・次時に・友と・自分に～」として取り組んでいます。単元や本時に関わるつながりだけでなく、小中併設校の特色を生かし、小学校から中学校までの九年間連続したつながりを大事に考え、「つながる授業」を実践しています。さらに「つながる小中の教職員」「つながる保護者」「つながる地域」など、人と人とのつながりも大切にしています。



2 研究内容

(1) 研究の目的

これからの国際社会で、生徒が様々な立場の人と共生し、よりよく生きていくためには、多様な見方や考え方に触れたり、コミュニケーション能力を高めたりしていくことが大切です。本校の生徒は、相手の話によく耳を傾け一生懸命に授業や活動に取り組む一方、自ら積極的に自分の考えを発言することに苦手意識をもつ姿が多くみられます。そこで、コミュニケーションツールの一つとしての「英語」で、特に、自分の考えを伝える力を育成するために、「コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じた表現を用いて自分の考えを伝えあう言語活動」を大切にした授業を実践し、検証します。

(2) 研究のテーマ設定の理由

初任からの授業を振り返ると、グループワークやペア学習を取り入れてはいたものの、教師主導の一斉授業の形態に近いものでした。また、スピーチの場面では、生徒は一生懸命に練習に取り組めますが、自信がもてないまま事前に用意した原稿をそのまま「読む」発表になりがちでした。今求められている「主体的・対話的で深い学び」につなげるためには、自らの授業改善に真剣に取り組むことが必要であると感じていました。



令和5年度、2校目の日義小中学校（日義中学校）に赴任し、木曽教育会英語同好会の公開授業者として、文部科学省初等中等教育局 直山 木綿子 視学官からご指導いただける機会を得られました。直山視学官から、Goalを生徒と十分共有することやALTとのよりよいチームティーチングの在り方についてご示唆いただき、生徒の主体的な学びを引き出せるよう授業改善に取り組みはじめました。

令和6年度も引き続き、関西外国語大学 直山 木綿子 教授（前文部科学省初等中等教育局視学官）にお越しいただき、言語活動を大切にした授業を行いました。Goalの共有とALTとのよりよいチームティーチングについて昨年度から改善が見られたこと、更に、「目的意識がもてる」「リアルな状況設定である」「相手意識がもてる」「コミュニケーションの楽しさや意義がある」言語活動を行うことを通して、生徒の英語力を高めていくことの大切さについてご示唆いただきました。



今回は、信濃教育会 学び創造研究会のお力をお借りし、木曽教育会や校内の先生方のみならず、より多くの県内の先生方に授業改善に向けた助言をいただけたらありがたいと考えています。中1、中2と授業を担当し、中3になった生徒と、日常生活の中にあるリアルな状況設定での必要感のある言語活動を通して、生徒の主体的な学びを引き出していく授業を目指します。生徒が自ら情報を整理してコミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じた表現を用いながら、自信をもって言語活動に取り組む力を高めていく授業の在り方を研究しています。

3 単元展開

【単元名】 : 「Lesson6 日義の魅力を伝えよう (New Crown 3)」

【単元の目標】: 外国人観光客に日義を実際に訪れてもらうために、作成したパンフレットを活用し、その人の必要感に合わせながら日義について伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
(話すこと [やり取り] イ)

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>関係代名詞（主格・目的格）の文構造を理解している。 <技能>関係代名詞（主格・目的格）を用いて日義について伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	外国人観光客に日義を実際に訪れてもらうために、その人の必要感に合わせながら日義について伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	外国人観光客に日義を実際に訪れてもらうために、その人の必要感に合わせながら日義について伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

【主な学習活動と評価計画】

時限	学習内容	指 導	評価の観点 (評価方法)
1	1 ペアで外国人観光客に日義を紹介するつもりでお互いに会話をする。 2 日義について伝えるために工夫した点をマインドマップにまとめる。 3 紹介する時に意識したことについて、掘り下げて考える。 4 友だちの考えから学んだことを踏まえて、もう一度ペアで会話をする。	・自分たちで作成したパンフレットをペアに見せながら、外国人観光客に話しているつもりで、日義についてペアに紹介するよう促す。 ※もっと知りたい情報や不明瞭なことは質問するよう促す。 ・外国人観光客が日義に来たくなるような紹介をするために自分が工夫したことをマインドマップで整理するよう促す。 ※友だちの考えを見られるように、共有ノートに書くよう促す。 ・例えば「相手へ質問をしてみた」という工夫が出てきたら、なぜ相手に質問をしたのかを掘り下げて、「相手がどんなことを知りたいのか」を理解するためという価値付けをする。 ・友だちの工夫を取り入れながら、もう一度違うペアでやり取りを行うよう促す。 ※会話を終えたら、マインドマップで思考を整理するよう促す。	※ねらいに即して生徒の活動の状況を見届け、指導に生かすことは毎時間行う。
	外国人観光客に日義に来てもらうために、工夫をしながらペアに紹介しよう。		
2	1. 状況設定に合わせて日義についてペアの相手に紹介をする。 2. マインドマップに加えた情報を共有する。 3. 異なる状況設定でもう一度違うペアになって紹介をする。	・旅行の目的や好きなものを設定し、その人のニーズに合わせてペアの相手に日義をアピールするよう促す。 ※会話を終えたら、考えたことをマインドマップで整理するよう促す。付け加えた部分は色を変える。 ・付け加えた情報を全体に共有するために、発表したり、他の人のマインドマップを参照したりするよう促す。 ・異なる旅行の目的や好きなものを設定し、友だちの考えから学んだことを取り入れながら、もう一度ペアの相手に日義について紹介するよう促す。	
	相手の求めることを考えながら、日義について紹介をしよう。		

3	1 外国人観光客の求める情報を考えながら、ペアで会話をする。 2 パンフレットに必要な情報を加えて、改良する。 3 関係代名詞を用いて、文章を推敲する。	•外国人観光客からもらったフィードバックを元に、情報を付け加えながら日義について紹介するよう促す。 ※聞き手も外国人観光客になったつもりで質問をするよう促す。 •作成したパンフレットに外国人観光客が必要な情報や自分たちのオリジナルな情報を加えながら、改良するよう促す。 •関係代名詞を用いて、外国人観光客が日義を訪れたいくなるように文章を推敲するよう促す。	知・技 (パンフレットへの記述) ※後日、ペーパーテストでも評価する。
	外国人観光客の求めることを考えながら、自分たちのオリジナルパンフレットを改良しよう。		
4	1 状況設定に合わせて日義についてペアの相手に紹介をする。 2 どんな質問をすれば、自分のほしい情報が得られるかを考える。 3 自分の考えを整理し、友だちの考えも参照する。 4 異なる状況設定でもう一度違うペアになって紹介をする。	•旅行の目的や好きなものを設定し、その人のニーズに合わせてペアの相手に日義をアピールするよう促す。 ※修正したパンフレットを見せながら伝えるよう促す。 •話し手が外国人観光客に質問されたときに困らないように、聞き手としてどんな質問ができそうか考えるよう促す。 ※相手によってニーズが異なるので、様々な視点から質問を考えるよう促す。 •マインドマップで自分の考えを整理した後で、友だちの考えを参照するよう促す。付け加えた部分は色を変える。 •異なる旅行の目的や好きなものを設定し、聞き手は自分がほしい情報を詳しく知るための質問をしながら、もう一度ペアの相手に日義について紹介するよう促す。	
	様々なシチュエーションで、ほしい情報を得るための質問を考えよう。		
5 本 時	1 Warm-up 2 情報共有 3 会話活動① 4 情報整理① 5 会話活動② 6 情報整理② 7 会話活動③ 8 振り返り	•生徒が話すトピックを提示し、ペアで会話をするよう促す。 •外国人観光客から得た感想やその人の人物像を共有する。 •外国人観光客の求める情報が伝わるように会話するよう促す。 •マインドマップに話した情報を書き込み、整理するよう促す。 •整理した情報をもとに、もう一度ペアで会話をするよう促す。 •マインドマップに話した情報を書き込み、整理するよう促す。 •Today's Goalを意識しながら、ペアで会話をするよう促す。 •本時の振り返りをするよう促す。	
	日義を訪れる人に、その人が必要とする情報を伝えられるように、日義について紹介し合おう。		
6	木曽福島駅へ行き、外国人観光客に話しかけて、日義について紹介するための会話を行う。	•実際に日義周辺で外国人観光客が多く集まる場所を訪れて、日義に足を運んでもらえるように、外国人観光客に日義について紹介するための会話をするよう促す。 ※自分たちが作成したパンフレットを持って行き、見せながら紹介するよう促す。	思考・判断・表現 (会話活動の観察) 主体的に取り組む態度 (会話活動の観察)
	木曽の観光地で外国人観光客に、日義を訪れてもらえるように日義を紹介しよう。		

4 単元設定から本時までの学びの過程

少子化に伴い、日義の子ども数が減少傾向にあることから、今年度をもって日義中学校は閉校します。一方で木曾を訪れる外国人観光客の数は増加傾向にあるという現状です。そこで、日義の魅力を外国人観光客に伝えて、実際に来てもらうことで、自分たちの住む日義を活性化させたいと考えました。

「自分たちの故郷をもっと多くの人に知ってもらいたい」という生徒の想いを実現するために、これまでに生徒が取り組んできたことを紹介します。

【4月】 修学旅行 広島～京都 ～奈良		《京都》 木曾には中山道が通り、多くの宿場町があります。古き良き町並みと自然が調和した風景に来た人は心を打たれます。そしてそれは、日本の古都である京都に通じるものがあると考えました。京都には外国人観光客が多く集まります。修学旅行でせっかく京都を訪れるのであれば、彼らに自分たちの故郷である日義について紹介しようということになりました。簡易的なパンフレットを作成し、それを持って外国人観光客に話しかけました。話を聞くのを断られる場面もありましたが、好意的な人も多く、生徒にとって大切な時間となりました。
【5月】 木曾で インタビュー		《木曾福島駅》 木曾福島駅は木曾町の中では一番大きな駅で、多くの外国人観光客が立ち寄ります。特に春と秋は日本人よりも外国人の比率が多いくらいです。そこで、木曾福島駅の隣の地区である日義にも足を運んでももらいたいと考えました。どのような情報があれば日義に来てもらえるのかを知るために、木曾福島駅で調査活動を行いました。観光局の方や多くの外国人観光客から必要な情報を得ることができました。
【6月】 パンフレット 作成開始		《パンフレットづくり》 持ち帰った情報を元に、ペアで日義の魅力について伝え合う活動を行いました。まずは自分が担当する情報を決めて、それについて詳しく説明できるようにしました。また、会話の中で相手から質問されたことをマインドマップに書き込み、パンフレットに載せる情報を整理していきました。マインドマップに情報を書き込むたびに、新たな視点が盛り込まれました。

【7月】 パンフレット 第一号完成		《パンフレット第一号の完成》 パンフレットに盛り込む最後の情報を「日義に来た外国人観光客が困らないように」という視点で、シェリー先生（ALT）の体験談を聞きながら考えました。例えば、「お店の名前がローマ字で書いてあっても、実際は漢字で書いてあるので、パンフレットには両方が必要になる場合もある」というような気付きがありました。
【9月】 パンフレット 配布		《パンフレットを置いていただく》 作成したパンフレットは外国人観光客が多く訪れる旅館や飲食店、駅、観光案内所など様々な場所に置かせていただくことになりました。また、パンフレットには内容を改善するためのアンケートがついており、外国人観光客からの実際のフィードバックを元に再考できるようにデザインしました。
【10月】 相手の求める 情報を伝える		《相手の求める情報に合わせて紹介する》 実際にあった外国人観光客のフィードバックから、どんな人が木曽を訪れていて、その人がどのような情報を求めているのかを知ることができました。そこで、教師が似たような人物設定のキャラクターカードを作成し、ペアワークの時にそのカードを配付しました。ペアの一方がその外国人観光客になりきり、もう一方が案内をするというロールプレイを行いました。生徒は相手の求める情報を引き出し、それに応じて会話をすることに挑戦しました。この授業は直山先生にも入っていただき、アドバイスをもらうことができました。

5 本時案

(1) 主眼

外国人観光客が日義に来て困らないようにパンフレットを作成した生徒が、パンフレットを読んだ外国人観光客の感想から、その人達が求める情報を知り、その人の必要感に合わせて日義を紹介する会話練習をすることを通して、相手が必要とする情報を盛り込みながら日義について紹介することができる。

(2) 本時の Today' s Goal と評価

Today' s Goal	日義を訪れる人に、その人が必要とする情報を伝えられるように、日義について紹介し合おう。
具体的な評価規準	相手が必要とする情報を盛り込みながら、日義を紹介することができるか。
評価の場面	ペアでの会話活動の場面
評価の方法	会話活動の観察

(3) 本時の位置 6時間扱いの第5時

前時： 様々なシチュエーションで、ほしい情報を得るための質問を考えよう。

次時： 木曽の観光地で外国人観光客に、日義を訪れてもらえるように日義を紹介しよう。

(4) 指導上の留意点

- ・相手の必要感に合わせた紹介になっている例を多く取り上げ、共有できるようにする。
- ・マインドマップは色分けし、その時間に変わった部分を目で見えて分かるようにする。

(5) 展開

	学習内容	予測される生徒の反応	教師の指導・評価	時間	備考
導入	1 Warm-up 教師とALTの会話中に出てきたトピックについてペアの相手に紹介する。	ALT: How was your weekend? T: I went to <i>Furuhouse</i> in Hiyoshi. I ate pasta. Q: What food do you recommend in Hiyoshi? S: I recommend ice cream of Michinoeki. You can eat corn flavor. It' s delicious.	○週末の出来事をALTと話す中で、生徒が話すトピックを提示し、ペアで会話をするよう促す。 ※ペアで話す雰囲気をつくれるように、時間を区切ってできるだけ多く発話ができるよう促す。	5	
	Today' s goal : 日義を訪れる人に、その人が必要とする情報を伝えられるように、日義について紹介し合おう。				

展 開	2 実際に寄せられている外国人観光客の求める情報を共有する。	・イベントに興味のある外国人観光客にはどんな情報を話そうかな？「らっぽしょ」とか？	○パンフレットを読んだ外国人観光客から寄せられた実際の感想やその人物像を共有し、ALTとモデル会話をする。	5	
	3 キャラクターカードの情報に合わせて日義についてペアの相手に紹介をする。	・Do you like Japanese history? Yes→I recommend Yoshinaka Yakata. Yoshinaka is a famous samurai in Japan. No→Do you like soba?	○キャラクターカードを用いて、ペアで一方が外国人観光客になりきり、もう一方が日義について紹介をするよう促す。感想を書してくれた外国人観光客の情報が書かれているので、それを踏まえて会話をするよう促す。	7	・キャラクターカード ・パンフレット
	4 話した内容をマインドマップで整理する。	・自分の経験をもとに、相手が求めるものについて説明することができた。相手からの質問にもしっかりと答えることができた。	○自分が会話の中で相手に伝えたことや付け加えた情報をマインドマップで整理するよう促す。 ※聞き手からどんな質問があつて、その情報を加えたのかを生徒から引き出す。	7	・タブレット
	5 もう一度、実際の外国人観光客の情報を元に、相手のニーズに合わせて日義を紹介する。	・Do you like Japanese food? You can eat soba. Do you know soba? Soba is Japanese noodle. It's delicious.	○もう一度、別の外国人観光客の情報を見ながら、外国人観光客と案内する人になりきって、ペアで会話をするよう促す。	7	・キャラクターカード ・パンフレット
	6 話した内容をマインドマップで整理する。	・どうしてその情報を加えたんだろう？ ・ペアの人からどんな質問があつたかな？ ・一方的に説明をしてしまい、相手の話を聞けなかった。	○自分が会話の中で相手に伝えたことや付け加えた情報をマインドマップで整理するよう促す。 ※話し手はどんな質問をして、相手から必要な情報を得たのかを生徒から引き出す。	7	・タブレット

	7 もう一度、実際の外国人観光客の情報を元に、相手のニーズに合わせて日義を紹介する。	・ Oh, you are interested in the event in Hiyoshi. Do you know rapposho? You can see fire art on the mountain.	○これまでの会話で得られた表現の工夫を活用して、相手が必要とする情報が伝わるように、日義を紹介するよう促す。	7	・ キャラクターカード ・ パンフレット
	相手が必要とする情報を盛り込みながら日義を紹介することができるか。				
終末	8 ふり回り	・ 外国人観光客に実際に案内する前に、もう少し情報を集めておきたいな。	○今日の授業の振り返りをするよう促す。 自分が意識したことやそれによってどのような情報を加えたのかを振り返るよう促す。	4	・ タブレット

(6) 見ていただきたいところ

- 1 日常生活の中にあるリアルな状況設定での必要感のある言語活動は、生徒の主体的な学びを引き出すことにつながっていたか。
- 2 生徒が自ら情報を整理し、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて会話活動を繰り返し行ったことは相手の必要感に合わせながら日義について伝えたり、相手からの質問に答えたりすることにつながっていたか。

6 座席表

※当日配布いたします。

7 生徒が作成した「英語版 日義のパンフレット」

※当日配布いたします。

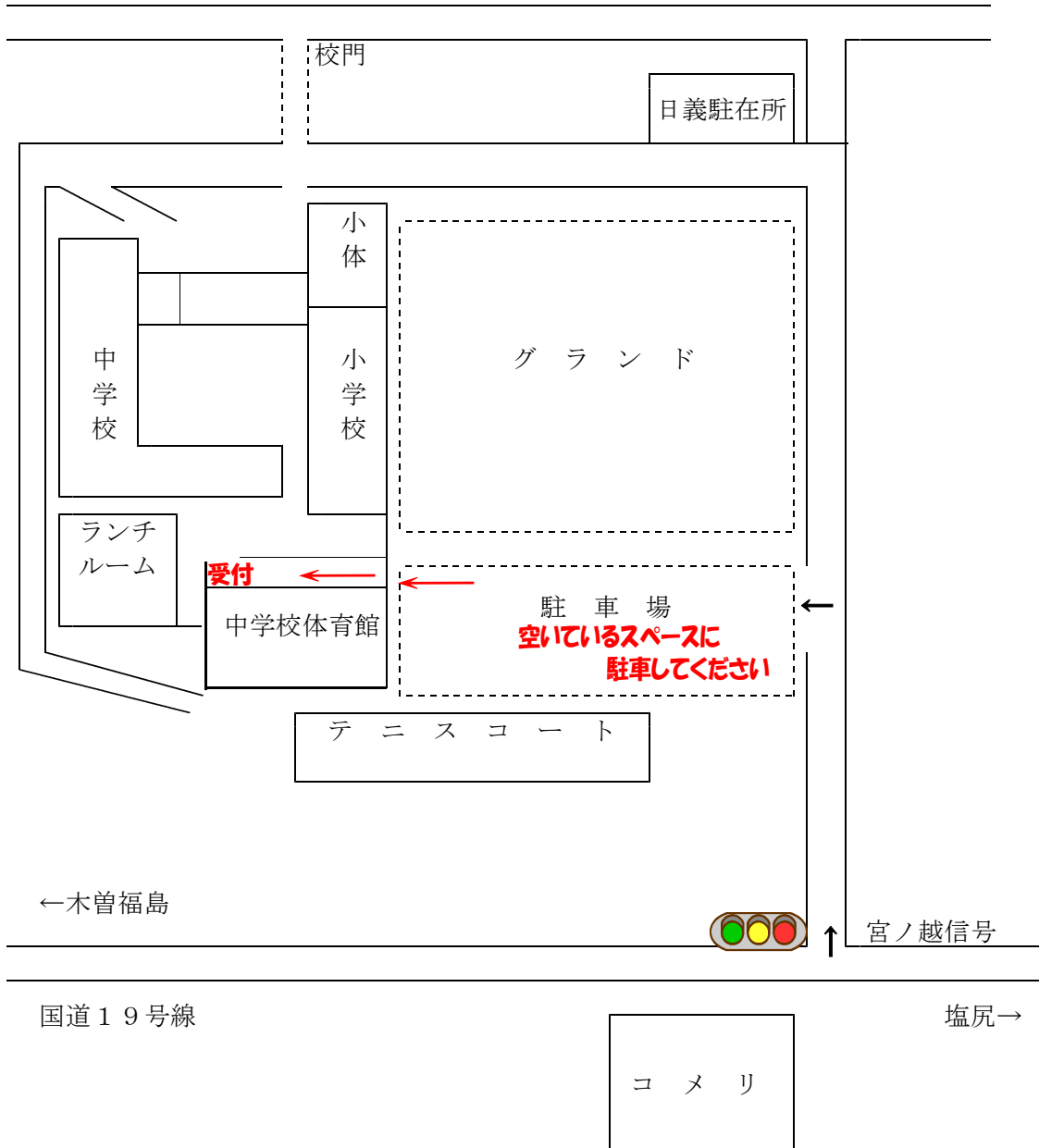
以後、交通案内、参考資料

- ・ 日義中学校交通案内
- ・ 前時に使用したキャラクターカード(状況設定)
- ・ 本校研究通信「ひよし研究だより」より

日義中学校交通案内

←原野駅

宮ノ越駅→



【松本方面からの場合】

- 国道19号を木曽方面に移動してください。
- 鳥居トンネル(塩尻市と木祖村の境界)を抜け、山吹トンネル(木祖村と木曽町の境)を抜けるとまもなくです。
- 信号宮ノ越を右折し、直進するとすぐにテニスコートが見えます。その先を左折すると本校敷地内となります。
- 本校敷地内に入って、駐車場の空いているスペースに駐車してください。
- 矢印のように進み、中学校体育館入口までお越しください。

From Canada CA Age 23 Stay 4 days Comment “I heard the local food is good. (おいしい) !” Interests / Wants Try the Gohei-mochi (五平餅) Find a good spot for a picnic (ピクニック) Learn about Nagano rice	From Mexico MX Age 31 Stay 1 week Comment “I want to try all the soba noodles (そば)!” Interests / Wants Visit a vegetable (野菜) farm. See how soba noodles are made Try Japanese tea (お茶)
From Germany DE Age 29 Stay 10 days Comment “I love snacks and sweet things (甘いもの) !” Interests / Wants Buy many Shinshu apples 🍏 (長野のりんご) Find a famous candy (お菓子) Try Japanese ice cream (アイス)	From Thailand TH Age35 Stay 6 days Comment “I want to eat food near the river (川)!” Interests / Wants Learn to say "delicious" in many ways Try the famous wild vegetables (<i>sansai</i>) Find a Japanese fruit to buy
From Australia AU Age 25 Stay 2 weeks Comment “I want to walk the Nakasendo (中山道)!” Interests / Wants Want to go hiking Listen to the sounds of the birds (鳥の音) Walk between two towns	From South Africa ZA Age 42 Stay 5 days Comment “The mountains (山) here are beautiful!” Interests / Wants Take pictures of the big Kiso trees (木) Find the clearest part of the Kiso River Visit a big park (公園)

From Sweden SE Age 27 Stay 1 week Comment “I want to study the nature (自然)!” Interests / Wants Find different types of mountain flowers (花) Go to a small fishing spot (魚釣り) See the Kiso Komagatake mountain 🏔️	From Brazil BR Age 33 Stay 3 days Comment “I want to find a great view (景色) for my camera!” Interests / Wants Enjoy the fresh air Hike with a new Japanese friend Find a spot to watch the sunrise (日の出)
From France FR Age 24 Stay 8 days Comment “I love old history (歴史) and old towns!” Interests / Wants Visit Narai-juku (奈良井宿) Find an information sign about samurai See the old traditional bridge	From China CN Age 38 Stay 5 days Comment “I want to learn about the culture (文化) !” Interests / Wants Visit a famous temples (お寺) See a very old Japanese house Find a place to sit and think
From Spain ES Age 28 Stay 4 days Comment “I want to see the Kiso mountain (山)!” Interests / Wants Find a small shrine (神社) See the snow on the top of Komagatake Visit a local history museum (博物館)	From Vietnam VN Age 45 Stay 7 days Comment “I want to draw pictures (絵) of the town!” Interests / Wants Draw Kiso river (木曾川) See the traditional buildings Visit a park or garden

佐藤先生、シェリー先生の公開授業

2学期がスタートし、10月8日(火)には小学校理科の教育課程も控えています。先日、指導案審議も行われました。柳澤先生を始め、多くの先生方にご協力いただいて準備を進めています。とても素敵な授業になりそうです。柳澤先生、頑張ってください。中学校でも公開授業をしてくださる先生方がいらっしやいます。お時間のある先生方は、短時間でもかまいませんので、授業を参観していただければと思います。先生方にも一緒に考えていただき、よりよい授業にしていければと思います。よろしくお願いします。

1 佐藤先生、シェリー先生の公開授業から

9月11日(水)の2校時に中学2年生で佐藤先生とシェリー先生の公開授業が行われました。

授業：「Lesson 4 Uluru」

授業学級：中学2年生 指導者：中信教育事務所 指導主事 橋爪 祐一 先生

【ご指導いただいたことから、私たちの授業の参考にしていきたいこと】



今回の授業は、佐藤先生とシェリー先生の「自分の考えや思いを自信をもって表現してほしい」という願いが込められて、行われた授業でした。佐藤先生の一人一人、丁寧に声をかける机間指導、シェリー先生の穏やかで生徒と目線を合わせた声かけに加え、2年生の仲間と関わり合いながら前向きに取り組む姿勢が見られ、とても素敵な授業でした。

◎指導主事の橋爪先生から

○よかった点

- ・言語活動の目的を明確にしていた点
- ・「相手が行きたいと思えるように」という視点で子どもたちが内容を工夫することができていた。

○改善点

- ・発表をゴールに据えたので原稿を書いたものを読むというのは、違う活動になってしまった。
- ・「相手が行きたいと思えるように」という部分をもっと掘り下げて、その表現がどうしてよいのかを生徒により意識させることができればよかった。
- ・ループリック評価をもとに色分けしたが、ループリックにあるから入れてみたにとどまってしまった部分がもったいない。「自分事として捉えられるから興味がもてる」という方向にもっていきたい。

＜実際の授業の様子から＞



○前時とのつながりを意識して、表現と語彙の復習からスタートしました。その後、タブレットを使って、自分が行きたい国について「ペアの人が行きたいと思えるように」学習した表現をもとに紹介分の内容を膨らませていきました。行きたいと思える文章を書く手立ても生徒の声から拾い上げ、使える表現を意識しやすい工夫がされていました。

ループリック

Lesson 4で習った文法（動詞＋A＋B）を用いて、自分の思いや考えを伝えながら、相手が行きたいと思えるように自分の行きたい国について紹介することができる。

S : Lesson4習った文法と自分の思いや考えを伝える表現をそれぞれ3文以上書いている。そこで味わえる体験を3文以上入れている。

AA : Lesson4習った文法と自分の思いや考えを伝える表現をそれぞれ2文以上書いている。そこで味わえる体験を2文以上入れている。

A : Lesson4習った文法と自分の思いや考えを伝える表現をどちらか1文で書いている。そこで味わえる体験を1文入れている。

＜相手が行きたいと思えるように＞

質問をする { Can you ~ ?
Which do you want ~ ?
You can ~ (できること)

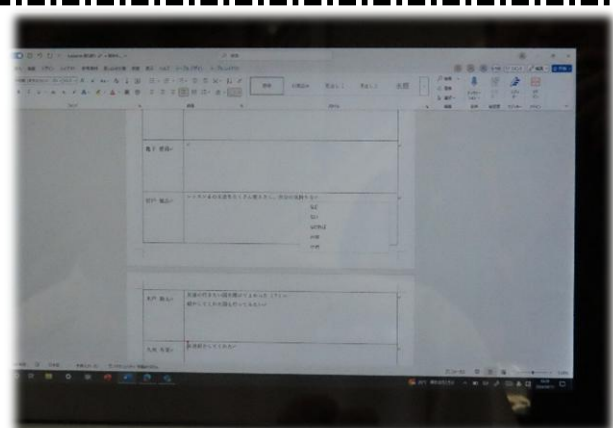
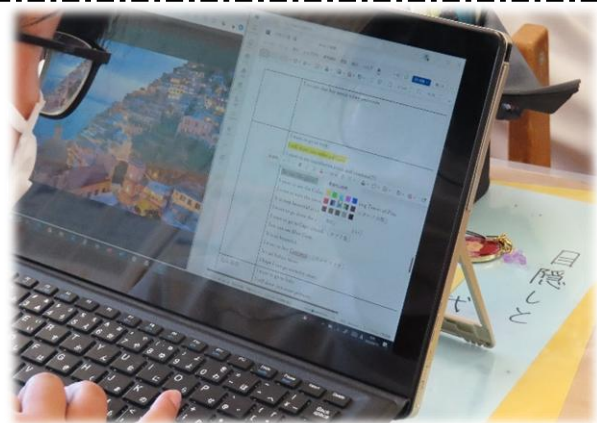
You should ~ (提案する)

Please (〜してみよう)

meではなくyouを使う



自分の考えた紹介文をループリックの色分けから、視覚的に見直す時間が設定されていました。生徒が自分の紹介文を色分けしていく中で、自分の文章の表現、内容の偏りや不足に気づき、文章の表現と内容を考えて、付け加える姿がありました。なにより、生徒たちが真剣に題材と向き合っている姿が素敵なのと感じました。



○授業の振り返りも工夫

授業の振り返りも、Teams を利用して、1 枚の Word に全員が同時に書き込めるようになっていました。生徒たちも友だちがこの一時間で「どんなことを考えたのか」「どんなことを学んだのか」を自然に共有できる工夫がされていました。この方法は英語に限らず、どの教科でもすぐにできそうだと感じました。

○発表後に生徒に問いかけてみました。「前回と比べて、魅力を感じましたか。」

すると「僕はフランスにはそんなに魅力を感じていなかったけど、前回紹介してもらった時よりも今回の紹介してもらったら興味がもてました。」と素敵な笑顔で答えてくれました。

普段の授業の様子から、生徒の考えやつまづきをくみ取り、単元を通した学び、1 時間の授業の中での学びなど、授業同士のつながりを意識して普段の授業を考えている佐藤先生とシェリー先生に、たくさん学ばせていただきました。授業公開お疲れ様でした。11 月にももう一度授業公開してください。佐藤先生、シェリー先生、頑張ってください。

佐藤先生、シェリー先生の公開授業②

11月に入り、公開授業のラッシュ月になりました。本日は佐藤先生とシェリー先生の公開授業についての紹介です。来週21日(木)は岩崎先生、翌週27日(水)は上村先生が公開授業をさせていただきます。お時間のある先生方は、短時間でもかまいませんので、授業を参観していただければと思います。よろしくお願いします。

1 佐藤先生、シェリー先生の公開授業②から

11月11日(水)の5校時に中学2年生で佐藤先生とシェリー先生の公開授業が行われました。
授業:「Lesson 5 Things to Do in Japan」

授業学級: 中学2年生 指導者: 関西外国語大学 直山 木綿子 教授

【ご指導いただいたことから、私たちの授業の参考にしていきたいこと】



○まず授業前に佐藤先生が2年生の緊張をほぐすため、一人一人に声をかける姿が印象的でした。今回の授業は、前回の「自分の考えや思いを自信をもって表現してほしい」という願いから一歩踏み込み、学級レクでやりたいことを簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を考え、友だちに「説得力をもたせて伝えること」を目標に行われた授業でした。説得力をもたせるために進んで、シェリー先生に表現方法を聞いたり、発表練習を見てもらったりする姿、シェリー先生の生徒に対する声かけや机間巡視も丁寧で生徒が安心して授業に取り組めていました。

◎直山教授からのご指導

○よかった点

- ・英語を生徒が使っている場面が使わされているのではなく、自分たちが使いたいと思って話すことができていた。
- ・生徒がやり取りする中で、会話の途中でも質問したり、詳しく聞き返したり、相手の考えを聞き出そうとする場面や自分の意見を相手にしっかり伝える場面が見られた。
- ・教室環境も含め、生徒を気遣って安心して学習できる環境が整っていた。また意見交換しよう相手に伝えようと思える雰囲気が学級につくられていた。

○改善点

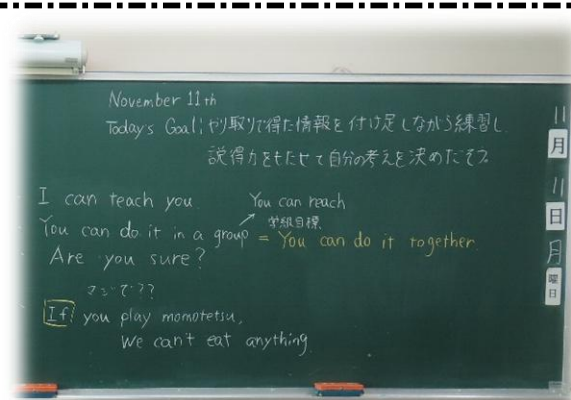
- ・生徒の声から発表の観点にあるレクの条件について確認する場面があった。その際に、マッピングを書く作業をしている生徒の手を止めさせることが大切。条件や使える表現を強く意識させることで生徒の思考が「説得力をもたせること」の意識につながる。

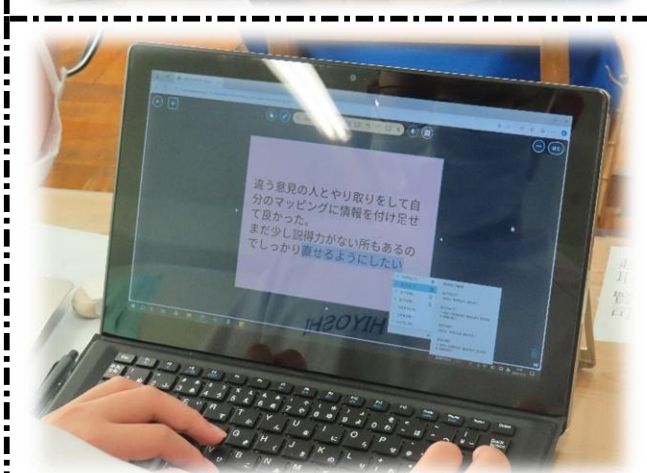
<実際の授業の様子から>



○この単元の目的と1時間の授業の目的が端的に黒板に示され、1時間のスケジュールが分かりやすい板書でした。

前時からつながりを意識し、2回の意見交換を通して、自分のアイディアマップに情報を付け加え、「説得力をもたせるために見えそうな表現」を書き込み、個々が発表に向けて準備を進めていました。佐藤先生は、生徒の声からも見えそうな表現を聞き取りながら板書をし、生徒たちが工夫できるように授業を進めていました。その後、シェリー先生をはじめ、先生方に聞いてもらい、発表練習を行いました。





○終盤の発表の場面

孔明さんと強志さんが緊張する中、発表をしてくれました。「自分の書き溜めたアイディアマップ」を用いて堂々と発表をしている姿は、「自信をもつ、説得力をもたせる」という目指す生徒の姿につながっていたと思います。学びをつなげるための手立てとして佐藤先生とシェリー先生が用いたアイディアマップがしっかりと学びを深める思考ツールとして機能していると感じました。

○発表後の最後の振り返りの場面

「違う意見の人とやり取りをして自分のマッピングに情報を付け足すことができた。まだ少し説得力が足りないところもあるのでしっかり治せるようにしたい」と賢司さんがまとめに記入していました。この後の授業でさらに突き詰めて、学級レクについて考えていくそうです。最後には実際に提案した学級レクの中から、決まったレクを学級で行うそうです。身近な生活に目を向けて授業を設定したからこそ、生徒たちが自分事ととらえて一人一人が学習に向かっていく環境ができたのだと思います。さらに「自信をもって発表する、説得力をもたせる」ために必要な Reading と Writing の力の両方を同時に伸ばしていくことを考え、レベルの高い授業に取り組もうと考えられていたことを感じました。普段の授業から生徒が主体的に学びに取り組めるよう、丁寧に考えている佐藤先生とシェリー先生に、たくさん学ばせていただきました。授業公開お疲れ様でした。

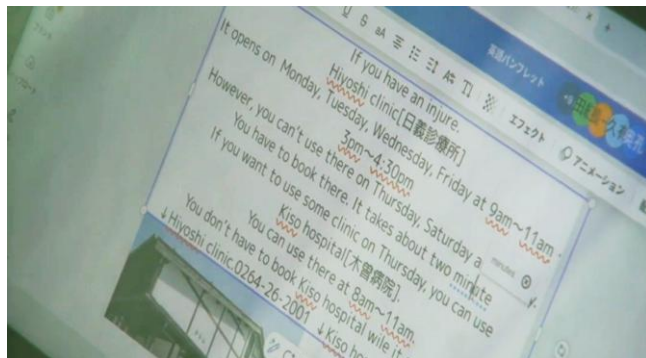
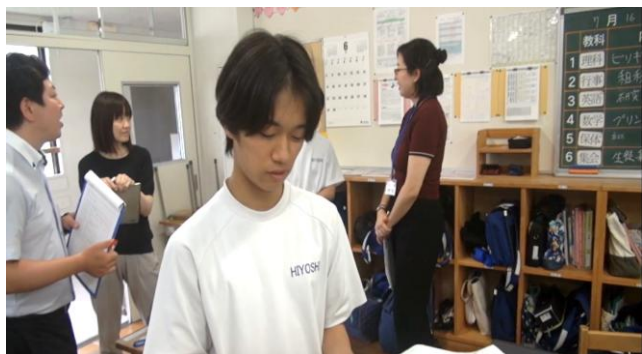
佐藤先生、シェリー先生の公開授業

7月16日(水)3校時に、信濃教育会学び創造研究会の事前授業として公開授業が行われました。

今回の授業は、佐藤先生・シェリー先生が「生徒が必要感や相手意識をもって英語学習に取り組んでほしい」という願いから、「日義の魅力を訪日外国人観光客に伝えよう」を単元のゴールとして展開されたものです。地域を題材にした学習で、生徒が自分ごととして取り組めるように工夫されていました。

4月の修学旅行で京都を訪れた際、3年生は木曽町を紹介し、外国の方にアンケートを行いました。その中で、木曽を訪れる観光客の多くが日義を通過してしまう現状を知り、「日義の魅力を外国の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」という問いを立て、木曽福島駅や観光局にフィールドワークに出かけました。そして、集めた情報をもとに外国人向けのパンフレットを作成してきました。

今回の公開授業では、シェリー先生が「日本に来て困ったこと」や「どんな情報があれば行きやすいか」という視点を提示し、生徒は英語でやり取りをしながらパンフレットの内容をブラッシュアップしました。最後には、その内容を英文にまとめる活動が行われました。



「ひよし診療所」を紹介する文章を考えていた奥谷孔明さんは、シェリー先生から聞き取った視点や、ペアでのやり取りをする中で、診療所はどのような場所であるか、いつ診療所が診察をしてくれるか、何をもらっていかなくてはいけないかを英語でやり取りをしていました。およそ5分間のペアでのやり取りの中で、メモを見ずにずっと英語でやり取りをする姿にとっても驚きました。(自分が中学3年生の時には絶対できない...) その会話の中から、「駅からどのように行ったらつくのか」「交通手段は何か」という視点に対して、パンフレットの文章の内容を仕上げる場面では、会話の中で得られた「困らないために必要な情報」を以前考えていた文章に書き加えていました。英語を通して相手意識をもったコミュニケーション力と英文を正確に書く力が育まれていることを生徒の姿から学ぶことができました。

生徒一人一人が「日義を外国の方に紹介する」という題材に、主体的に取り組んでいました。自分ごととして文章を考え、相手意識をもって推敲しながら英語で正確に文章を書こうとする姿から、生徒英語を通しての主体的な姿や学びの深まりを感じることができるすごい授業でした。



・授業者の振り返り

佐藤先生

- Today's goal として「外国の方が困らないように」という視点を新たに設定したが、この視点をもっと徹底させたほうがよかったのではないかな。
- 子どもたちが相手意識をもつために、どのような指導ができたのかを検討したい。
- ローマ字は外国の方には伝わらないという視点は理解されていたが、そこからさらに必要な情報を深めていくにはどうしたらよいかが課題である。

シェリー先生

- 子どもたちのリアクションは良かった。
- ローマ字で書かれているものをどのように説明するか、視点の与え方や指導方法を考えたい。
- 「支払い方法（現金かクレジットカードか）」という視点を提示したが、子どもたちの実態には合わなかったかもしれない。

・参観していただいた先生から

外国の方が「困らないように」という抽象的な視点について、シェリー先生の「ローマ字が伝わらないこと」「現金かクレジットカードか」という実体験をもとに生徒に話してくれたことで、池ノ上毅士さんは、「Sunki（すんき）」とローマ字で表されたものが相手に伝わらないことを知り、さらに英語で詳しい説明を付け加え、支払い方法の視点が外国の方にとって「必要なこと」だと気が付く姿があった。今回の授業で、学びが深まる様子を生徒の姿からみとることができた。

1時間の中でペアを入れ替えて「話す活動」があったおかげで、話す内容にも変容が見られた。Do you know～?と話し手が聞き手に問いかける場面があり、そこから相手意識が芽生える瞬間があった。また、ある生徒が会話の中で営業時間に言及する場面があり、聞き手も自分が考えた文の中に営業時間を取り入れた文を作る姿があり、1時間の中で、変容する姿が見られた。また、ブレンドコーヒーが相手に伝わるかどうか考え、どうやったら相手に伝わるか、ブレンドコーヒーとは何か一生懸命調べて英語にする姿があった。

・授業研究会の直山先生からのご指導

成果

オンラインで子どもたちの会話の内容は聞こえにくかったが、「外国の方が困らないように」という視点のもと、子どもたちが自分ごととして取り組んでいた。ローマ字で表記されたものに対しても、どんな風に相手に伝えれば良いか考える姿があった。現金かカードかという視点も、教師目線であって子ども目線ではないという反省もあったが、子どもたちは活かして書き加えている姿があった。英語でのペアトークの時間があったが、どの時間でも子どもたちは一生懸命英語を使ってやり取りしようとする姿があって気持ちの良い子どもたちであることが分かった。自信がないことは、話すことができないし、相手に向き合わない、しゃべることができないので、自分たちが住んでいる地域を題材にしたことは、主体的に取り組む姿につながっていると言える。

佐藤先生とシェリー先生のお二人が授業を創り上げていることで、よい授業になっているのではないか。1年生の時と比べて子どもたちがよく伸びている。2年生の時は、特別活動（学級レク）を決めるときに自分の考えた案を相手と議論しあい、よりよいものは何か考えるものだったが、今回の授業では、日義地区を紹介する「話す活動」の後に、パンフレットを仕上げる「書く活動」を通して、英語の会話での不確実さを、視覚的に補い、正しく相手に伝えようとする姿につながっていると言える。

信教全県大会に向けての課題

シェリー先生の紹介した「日本に来て困ったこと」のなかに、子どもの実態に合わない話題があった場面で、子どもが分からないという反応をしたときに、近くで話し合ってみて「Tax Freeってどういうこと？」など気軽に相談する時間を取り入れてみると、不安や経験不足を補うことができる。

ペアトークの時間で、お互いが発表しいたことを「聞き手」が「話し手」に「それってどういうこと？」と質問することで、「話し手」が自分の考えた内容をブラッシュアップすることにつながるので今後取り入れてほしい。

マインドマップを紙で作成していたが、パンフレットと同じようにICTを活用して共有してほしい。他者の考えに触れ、自分の書いたものを振り返る他者参照の時間が、学びをより深めることになる。子どもたち同士で学ぶ時間を充実させると、学びがより一層深まる。

・まとめ

今回の公開授業を通して、地域特性を生かした教材が、子どもたちの主体性を引き出すことが改めて示されました。子どもたちが題材の魅力に気づき、「主体的・対話的で深い学び」の姿につながっていることを佐藤先生の授業を通して学ぶことができました。地域に対する思いや気持ちを題材にして、授業を考えてみませんか？

佐藤先生・シェリー先生お疲れさまでした。10月の信教全県に向けて、さらに実践を積み重ねていかれることを期待しています。

佐藤先生の授業が見たかった！という方は、配信動画がありますので、ぜひご覧ください。

“X:¥01_R7 年度 校務分掌¥00c_教科研究¥2025-07-16 10-42-50.mkv”